

### I

#### ■出題のねらい

友人同士で遊園地に行った際の会話に関する問題です。どのような順番でアトラクションを回るか相談する内容となっており、それぞれの登場人物の主張を踏まえてどのような結論に至るのかを読み解くことが求められます。また、各アトラクションの特徴や混雑具合、距離などの情報も見落とさないようにしましょう。

#### ■採点講評

1 は80%以上の正答率でしたが、2 は30%程度と、同じ文脈を読む問題で正答率に差が出ました。後者はどのアトラクションにどの順序で乗るのかという複雑な内容を踏まえ、合理的な発話を選択する必要があるので難しかったかもしれません。(2)の会話の内容を問う問題では、3 の正答率が35%程度、他の二つは60%前後でした。4 と5 は特定の項目について尋ねる問題であるのに対し、3 は、選択肢自体は平易ですが会話文全体を読んで判断しなければならないため、正答率が下がったのだと思われます。このような本文全体を通して正誤を判断する問題は他の大問でも頻出ですので、選択肢の主題となる内容が本文のどのあたりに登場するのか、本文を読んで行く中で大まかに把握することがポイントです。

## II

### ■出題のねらい

自転車サークルへの勧誘のポスターに関する問題です。時刻や距離、タイミングなどの情報を拾うために、英文をしっかりと読み解く必要があります。また、メンバーが受けられる特典についても単語の拾い読みや知識への依存では回答できないため、たくさんの文章を読んで読解力を養いましょう。

### ■採点講評

□ 6 □ は50%に満たない正答率でしたが、間違いの選択肢の中では④を選択した人が多かったようです。CCCC への勧誘のポスターなので、時制は現在形だと考えましょう。この大問の中で最も正答率が低かったのは □ 10 □ の35.7%で、「新メンバーの入会希望を審査する可能性が最も高いのは誰ですか」という問いです。正解は② secretary ですが、正答を選んだのと同数程度の人が② An occasional rider new to the city を選択していました。この問題は、最後の「How do I sign up?」の段落の情報だけでは足りず、第2段落「Who and What is it?」に書いてある、委員の役割に関する情報を併せて参照する必要があります。□ 9 □ も同様に、異なる段落の情報を考え合わせなければ正答が導けない問題になっています。この場合は、第2段落の「(毎回のサイクリングは) 中間地点での30分の休憩を含まないで3時間続く」、つまり開始時間から3時間半を要する、という情報と、第3段落の「典型的には正午に Brick Street Café で終了する」という情報を考え合わせ、正午から3時間半前の時刻にスタートする、と逆算しなければなりません。③ At 9:00 am を選択していた人も多かったですが、サイクリングの開始から終了までの「所要時間」には実際に自転車に乗っている時間に加え、休憩時間も含まれます。字面だけを追って解答するのではなく、実際の状況を想像しながら読み解いていきましょう。

### III

#### ■出題のねらい

日本一の超高層建築物である東京スカイツリーの上層部の除雪に関する取り組みを説明した英文です。上層部の鉄骨などに積もった雪が大きな固まりとなって地上に落ちると、家屋や車などに被害が及ぶ場合があります。積雪・着雪が大きな固まりにならないよう、手作業でこまめに除雪したり、凍った雪を砕いておく必要があります。こうした状況を受け、運営会社は工夫を重ねて除雪器具を改良しています。関係者の苦労や発想を思い描きながら読むことによって、より正確に内容を読み取ることができるでしょう。

(1) の  は、選択肢の単語の意味を区別するだけでなく、この文の主語が何なのかを突き止める必要があります。 は、毎年のように実施されている器具の改良をどのような時制で表現すべきかについて検討すると、正解に近づけます。

#### ■採点講評

の正答率は40%程度でした。正解は③ですが、同数程度の受験生が②を選択していました。②の正誤を判断するには第3段落2行目～4行目を確認する必要があります。本文では、「2012年5月にタワーが開業する前の2011年から、毎年1～4件の被害が報告されている」「2021年度現在、そのような被害が全体で25件報告されている」と書かれていますが、選択肢は「開業以降」となっていて、開業前にもあったはずの報告が含まれていません。

また  は“improve”を他動詞と捉え、④ been improved 「改良されてきた特殊な器具」とするのが正解ですが、自動詞の用法もありますので② improved 「改善してきた特殊な器具」と捉えることも可能なため、両方を正答としています。

## IV

### ■出題のねらい

旧グッゲンハイム邸と呼ばれてきた建物に、実はグッゲンハイム氏が住んだことはなかったという新事実を扱った記事です。旧グッゲンハイム邸と旧ライオンズ邸という二つの建物の名前、そしてグッゲンハイム氏とライオンズ氏という二人の人物、さらには現在の旧グッゲンハイム邸を管理する人物やその妹が出てくるので、混同しないように正確に文章を読み進められるかが大きなポイントです。少しでも論理的につじつまが合わないと持った場合は、どこかで混同していないかどうか、落ち着いて振り返ってみてください。

### ■採点講評

16 の本文の内容に合わないものを選択する問題と、19 21 の空所埋め問題は50%以上の正答率でしたが、それ以外の問題はいずれも40%に満たず、受験生にとっては全体的に難しい問題になっていたようです。特に、17 の discrepancy の意味を文脈から推測する問題は正答率が16%程度に留まっていました。discrepancy が主語になっていたため難易度は高かったと思いますが、この文は段落の最初の文であり、トピックセンテンスになっていることが予測できます。つまり、この文に続く内容が、トピックセンテンスの具体的な内容になっているということです。長文読解問題を学習する際には、文章の論理的な構成にも意識を向けてみてください。

# V

## ■出題のねらい

「日本食」の豊かさが世界的に有名であるにもかかわらず、日本人は料理という活動をあまり好まないという調査結果について書かれた英文です。料理に見いだす楽しみと、料理をする理由について、得られた回答とその割合から、日本と他の5つの国の間の相違点を比較し、情報を整理することが求められます。その際、数値情報を正確に読み取ることもポイントです。

## ■採点講評

28 が難しかったようで、正答率は22%程度でした。下線部2)の文章のある一文は、下線部2)が含まれる節が主節であり、“to cut down on food expenses”という、アンケートの回答の選択肢が主節の主語になっています。「不要なものを1つ選択する」という大問Vの問題形式では、いかにも正答に見えるような誤答の選択肢を紛れ込ませていますので、文脈をしっかりと理解するのはもちろんのこと、正しく文の構造を捉えられるよう、文法をしっかりと学習しておく必要があります。その他の3つの小問の正答率は40%台でした。